

「かくれんぼ」に熱中する子どもの表情は、それぞれに興味深いものがある。

一人、物かげに身を潜めている子どもの全身は、「かくれおせたい」という願望と、「もし見つからなかったら」という不安とで、微妙なおののいている。二人で手を携えて、すみっこで息を殺す仲よし同士は、しのび笑いを押さえかねて「秘密を共有する喜び」に恍惚としている。そして、誰もいなくなつた世界を、単独で開拓すべく義務づけられた鬼の表情は、限りなく孤独に見えるだろう。

「逃げる・追う」「かくれる・見出す」という、最も基本的な、但し、相反する二つの動きを対にすることで成り立ったこの遊びは、そのどちらに身を置くかによって、世界を異なつた視覚でとらえる機会を用意している。鬼にとつても、かくれ手にとつても、世界は、常ならぬ相貌をあらわにするだろう。そして、降り

注ぐ白日の光の下にも、依然として横たわる深い闇の存在を告げ、人間が一人であること、そのゆえに他者を必要とすることに気付かせるのだ。

子どもの遊びの衰退が歎かれ、遊びの種類の激減が憂えられて久しい。そんな中で、「かくれんぼ」は、比較的よく遊ばれるものに属し、恐らくは、生きのびる遊びではないかと推測されている。性別も年齢も問わず、格別の道具も不要、ルールも単純という、あの素朴さがこの遊びを支えているとも言われている。

然し、「かくれんぼ」は、先に触れたように、明かると暗さを同居させている。それは、このプリミティブな遊びが、単なる子どもっぽい時間つぶしではなく、人間の深層に錘を下るすしたたかな綱を、その中に秘めていることを証しするものと言えないだろうか。

(本田和子)

幼児の教育 第七十八巻第九号

九月号 ◎ 定価二五〇円

昭和五十四年八月二十五日 印刷

昭和五十四年九月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。